

## 編集後記

いよいよ平成16年度4月から国立大学が法人化され、大学のシステムも大きく変わる。そうした状況下で工学研究科の教育・研究にもより高い次元のものが求められる。工学部・工学研究科技術部は平成3年度の総長裁定から出発し、平成14年度から本格的に組織体として機能し始めた。

平成7年度から発行が始まった技術部の技術報告書も平成10年度にその名称を「技報」と変える変遷を経て、既に9年になる。本年の技報には全部で29件の技術報告、研修等の報告が寄稿された。共同執筆者も含めるとその数は77人に及ぶ。これは技術部の構成員がちょうど1件ずつの報告書作成に関与したことに相当し、多くの人が報告書作成に参加してきていると言える。ともすれば技術職員は書くことが苦手と言われてきたが、執筆者に偏り等はあるものの徐々にそれを克服してきているかの様に思える。今後はいっそう幅広い人が研修等で自己研鑽を積み重ねるとともにより高い峰の技術に挑み、より高い質の技術報告書を書ける能力を蓄積していくことが望まれる。

終わりにあたり原稿をお寄せ頂いた技術部長を始め、各執筆者ならびに発刊にご協力頂いた皆様に感謝致します。

平成16年3月

### 技報編集委員会

堀木 幹夫 環境・安全技術系 前任専門技術職員  
清水 利文 装置開発技術系 前任専門技術職員  
宮嶋 伸好 環境・安全技術系 専門技術職員  
川出 義之 分析・物質技術系 専門技術職員